



一乗小だより

深く考える子
進んで取り組む子
思いやりのある子

福井市一乗小学校 第95号
令和8年1月30日発行
TEL 43-2024 FAX 43-2025
E-mail: itijo-e@fukui-city.ed.jp

1月を終えて

午年2026年が始まって早くも2月に入ろうとしています、時間が過ぎるのがとても早く感じます。職員室では3月の卒業や進級までに教科書の内容を全て終わらせないといけないので1日も休めないという声が聞こえてきます。先週から降り続いた雪は報道によると、福井では3年ぶりに積雪が56cmありました。そのため一時は臨時休業の可能性もあり、学校が休みになることを心配していたようです。今のところ大きな被害は出ておりませんが、大雪には今後も警戒が必要です。学校では様々な場合を考え子どもたちには注意を呼びかけていきますので、ご家庭においてもお子様への声かけをよろしくお願いいたします。



さて、1月は正月に始まり、様々な伝統的な行事がありました。最近では天神講を行ったところもあったかもしれませんが、日本ならではの、福井ならではの伝統的な行事をふりかえりたいと思います。

1月の伝統的な行事

① 1月1日：元日（がんじつ）

一年の始まりを祝う日 家族そろって新年のあいさつをしたり、おせち料理を食べたり、初詣に出かけたりします。
初詣（はつもうで） 新しい年になって初めて神社やお寺にお参りし、一年間の健康や安全を祈ります。
お年玉 子どもたちが親や親戚からもらうお祝いのお金。昔はお餅を配っていたことが由来と言われます。
しめ縄・門松・鏡餅 年神様を迎えるために飾られる正月飾り。

門松 玄関に立てて、神様を迎える目印	しめ縄 神聖な場所を示す飾り	鏡餅 年神様への供え物
-----------------------	-------------------	----------------

② 1月7日：人日（じんじつ）の節句・七草がゆ

一年の無病息災を願い、春の七草を入れたおかゆを食べます。食べ過ぎになりがちな正月の疲れをとる意味もあります。

③ 1月11日頃：鏡開き（かがみびらき）

正月に飾った鏡餅を下げて食べ、一年間の健康を願う行事。地方によって日付が異なることがあります。なぜこの日なのかについては諸説あるようです。

④ 1月15日：小正月（こしょうがつ）

豊作祈願を中心とした行事。地方によっては「どんど焼き」などの火祭りが行われます。

正月飾りやしめ縄、書き初めなどを焚き上げ、一年の無病息災や厄払いを願う行事です。火にあたることで健康を願ったり、書き初めを燃やして字の上達を祈ったりと、その土地ごとに受け継がれてきた意味や作法もさまざまです。正月の終わりを告げると同時に、暮らしを日常へと戻していく節目であり、どんど焼きは、そんな役割を担ってきた小正月の行事です。

⑤ 成人の日（1月第2月曜日）

20歳になった若者を祝う日。全国で成人式が開かれます。今は18歳成人なので、成人式とは言わず「二十歳の集い」等の名称でお祝いをしているところが多いようです。

⑥ 天神講（てんじんこう）

福井・石川など北陸地方に残る、学問の神様「菅原道真公」を祀る家庭行事。

福井では、子どもの学業成就を祈り、その家に初めて男の子が生まれると母方の祖父母から天神様の掛け軸が贈られる、という風習があります。その掛け軸をお正月から床の間に飾り、掛け軸を片付ける日には焼きガレイをお供えします。その天神様の掛け軸を片付ける日《焼きガレイをお供えする日》が天神様の月命日である1月25日なのです。お正月からということで、家によっては鏡餅やお神酒をお供えすることもあります。でも、焼きがれいをお供えするのは、最終日の1月25日だけです。

やり抜く力の芽を育てる

《子どもへの声かけの工夫》

先日、中央公民館の社会教育指導員により行われた家庭教育講演会では子育てを話題にして「子どものやり抜く力の芽を育てる」ために、子どもへの寄り添い方をちょっと工夫してみませんかというお話がありました。そこでは、子どもへの声かけの基本になるのは「子どもの自己肯定感を高めるような声かけの工夫」ということでした。その上で、

- ①成功体験を積み重ねられるようにサポート、
- ②物事に取り組むプロセスをほめる、
- ③自分で考えて取り組む経験を積み重ねる、
- ④失敗しても前向きに考えられるようにサポート、
- ⑤親が模範を示す、



という5つの方法を具体的に教えていただきました。いきなり5つのこと全部

をやってみるのは難しいと思いますが、この中で何か1つを選んでチャレンジしてはどうでしょうか。すでに取り組んでいるという場合はその取組の成果をふりかえり、さらに工夫していくといいですね。

そして、この日の講演を聴いて、以前に調べた話を思い出しました。Appleの創業者スティーブ・ジョブズが自分の子どもにはコンピュータを制限し、親と子の対話を重視したという話です。

「スティーブ・ジョブズに学ぶデジタル時代の子育てについて」

《親子で語り合う時間がとても大切》

Appleの創業者であるスティーブ・ジョブズは、自分の子どもたちに iPad や iPhone を使わせなかったことで有名です。彼の知人が「子どもたちは iPad を使っているのか？」と尋ねたところ、「使っていません。私たちは子どもたちのテクノロジー使用を制限しています。」彼の家庭では、夕食時にスマホ等は一切使わず、家族で本や歴史、哲学などについて語り合う時間を大切にしていたそうです。

また、ジョブズの伝記を書いた作家によると、お互いに向き合っの会話を何よりも重視して、子どもたちと深い対話を通じて思考力や価値観を育てていたようです。言葉の習得やコミュニケーション力は、大人との会話が育てると考えていたこともあり、使う場合があるときは、親子でやりとりをしながら使うことが大切だと考えていたようです。

※詳細は2月号でお知らせします

昨日の家庭教育講演会や今回ご紹介した話から考えると、子育ての基本はいろんな方法があると思いますが、親子の直接の対話が大事ということだと思います。いつか子どもたちが親元を離れる日がくると思いますが、それまでの期間は今、6年生の子で短くて6年ででしょうか。子どもたちと触れ合っている今の時間を大切にしたいと思いました。

一乗なんでも情報館

《先生による読み聞かせが始まりました!》



普段は読み聞かせの先生や学校司書の先生が行っている読み聞かせですが、全員の先生方での取組が始まりました。この日は校長先生と生き生きサポーターの先生による読み聞かせでした。聞く方も読む方もとても楽しい時間を過ごすことができました。

《来週以降の動き》

来年度、新1年生となる子どもたちの体験入学があります。足羽一中オープンデーとわくわく交流デーが行われ、新年度に向けての準備が少しずつ始まっていきます。また、2月後半には全校お楽しみ会があり、いよいよ卒業に向けて動き始めます。

..... 切り取り

学校へのご意見や感想をお知らせください。

こちらからも可 →→→

年 名前

(無記名でも構いません)

